

## 国際華語特別集会

主 題：

良い戦いを戦い、行程を走り終え、その信仰を守り通し、主の出現を愛して、

義の冠としてのキリストの褒賞を受ける

Ⅱ テモテ第4章7節において啓示されているように、

正常なクリスチャン生活は三重のものです。

それは、良い戦いを戦うこと、行程を走り終えること、

その信仰を守り通すことと関係があります。

新約において、信仰は客観的であり、また主観的です。

客観的な信仰は、わたしたちが信じているものを指しています。

主観的な信仰は、わたしたちの信じる行為と関係があります。

わたしたちはキリストをわたしたちの王国の褒賞として享受するために、

主の出現を愛していなければなりません。

主の出現とは、今日わたしたちに対する彼の出現また現れであり、

また彼の再来の時に彼の民と共にある彼の臨在です。

この事は、狭められた道にとどまり、命において目を覚まし、

奉仕において忠信であり、キリストの花嫁として構成されることによってです。

主が来られる時、信仰は事実となり、祈りは賛美に置き換わります。

愛は影のない完全なものとなり、わたしたちは罪のない領域で主に仕えます。

それは何という日でしょう！ 主イエスよ、早く来てください！

良い戦いを戦う

聖書：Ⅱテモテ 4:7 前. Iテモテ 1:18. 6:12

I. Ⅱテモテ第4章7節において啓示されているように、正常なクリスチャン生活は三重のものです。それは、良い戦いを戦うこと、行程を走り終えること、その信仰を守り通すことと関係があります。

II. 「わたしは良い戦いを戦い抜き……ました」——Ⅱテモテ 4:7 前：

- A. 信者たちは、使徒の命令を受けることによって、良い戦いを戦います——Iテモテ 1:18：
1. 使徒が彼の霊の子に対して与えた命令は、積極面においては神のエコノミーと関係があり、消極面においては異なる教えと関係があります——3-4節。
  2. パウロはテモテに、その信仰からそれていくことに対して戦うように、すなわち、その信仰の良い戦いを戦うように命じました——6:12 前半。
- B. パウロがテモテに告げたのは、テモテに関して前になされた予言にしたがって、テモテが「良い戦いを戦うように」ということです——Iテモテ 1:18：
1. 良い戦いを戦うことは、異議を唱える者たちの異なる教えに対して戦うことであり、また神のエコノミーを遂行することです——4節。
  2. この戦いは、恵みの福音と永遠の命に関する使徒の務めにしたがっており、ほめたたえられるべき神の栄光のためです——11-16節。
  3. 一方で、テモテは異なる教えに対して戦わなければなりません。もう一方で、彼は使徒の務めにしたがって神のエコノミーを遂行しなければなりません——3-4, 18節。
  4. キリストと召会に関する神のエコノミーを教えて宣べ伝えることは、良い戦いを戦うことです——18節。
- C. Iテモテ第6章12節前半は言っています、「その信仰の良い戦いを戦いなさい」：
1. その信仰のために戦うことは、神の新約エコノミーのために戦うことを意味します。
  2. 特に、それは神の具体化としてのキリストのために、またキリストのからだとしての召会のために戦うことです——コロサイ 2:9. Iコリント 1:2. 12:27。
  3. その信仰の良い戦いを戦うことは、神の新約エコノミーにしたがった完全な福音の内容のために戦うことです——エペソ 3:6。
  4. 召会は、異なる教えのゆえに、すでに墮落して、その信仰からそれていました。パウロはテモテに、その信仰からそらされることに対して戦うように、すなわち、その信仰の良い戦いを戦うように命じました——Iテモテ 6:12 前半。
- D. Iテモテ第6章12節後半で、パウロは続けて言っています、「永遠の命を保持しなさい。あなたはすでに永遠の命へと召され……たのです」：
1. 永遠の命とは実は、わたしたちの命としての手順を経て究極的に完成された三一の神です——ヨハネ 3:15-16。
  2. Iテモテ第6章12節後半の永遠の命は、神聖な命、神の非受造の命であって、永遠のものです。
  3. 「永遠の」は、神聖な命の時間的な要素よりも、神聖な命の性質を指しています——Iヨハネ 5:11。
  4. わたしたちは、クリスチャン生活においてその信仰の良い戦いを戦うために、この神聖な命を保持する必要がある、わたしたちの人の命に信頼してはなりません——参照、マタイ 16:25-26。
  5. わたしたちは永遠の命を保持することによって、客観的にだけでなく、また主観的にその信仰の良い戦いを戦います——Iテモテ 6:12 後半。

6. その信仰からそらす敵のこうかつさとは、信者たちを永遠の命から遠ざけることです。
  7. わたしたち真の信者は、永遠の命を保持しなければなりません。永遠の命がなければ、わたしたちは無です—— I ヨハネ 5:11。
  8. わたしたちは永遠の命を保持する必要があります。そうすれば、わたしたちは良い戦いを戦うことができます—— I テモテ 6:12 後半。
  9. 永遠の命は、テモテへの第一と第二の手紙と、テトスへの手紙において、繰り返し強調されています—— I テモテ 1:16. 6:19. II テモテ 1:1, 10. テトス 1:2. 3:7。
  10. テモテへの第一の手紙で見られる召会に関する神のエコノミーを遂行するために、またテモテへの第二の手紙で見られる召会の衰退傾向に立ち向かうために、またテトスへの手紙で見られる召会の中の良い秩序を保つためには、この命が必要条件です。
- E. わたしたちは、サタンに対してまた暗やみの王国に対して良い戦いを戦っています：
1. わたしたちは、自分自身を完全に保つことができるだけでなく、また悪魔に挑戦すべきです——マタイ 12:26, 28。
  2. わたしたちは神の兵士となるべきであって、良い戦いを戦い、悪魔の要塞を破壊し、人の思想をとりこにして、キリストに対して従順にならせるべきです—— II コリント 10:3-5。
- F. わたしたちは真理のために良い戦いを戦っています—— I テモテ 6:12. I ヨハネ 1:6. 2:21. 4:6 :
1. 真理は、三一の神と彼の言葉です——ヨハネ 1:1, 14-17. 14:6, 16-17. 15:26. 16:13. 17:17. 18:37 後半。
  2. 神聖な真理は絶対的であって、わたしたちは真理に対して絶対的でなければならず、真理の絶対性を保持しなければなりません—— 14:6. 18:37. III ヨハネ 3-4, 8 節。
  3. わたしたちは、神の真理を尊重し、真理の道を取り、真理について少しも妥協すべきではありません—— II ペテロ 2:2。
  4. わたしたちは、真理がわたしたちの中へと造り込まれ、わたしたちの存在の中へと構成し込まれるようにする必要があります—— I ヨハネ 1:8. 2:4. II ヨハネ 1-2 節. III ヨハネ 3-4 節。
  5. わたしたちは、神聖なエコノミーの究極的完成のために、現にある真理に対して、最高の真理に対して、主観的な真理に対して絶対的であるべきです—— II ペテロ 1:12. ローマ 8:3. 1:3-4. 12:4-5. ヨハネ 8:32. 14:6。
  6. わたしたちは、自分がいる所よりも高い事を教えることと宣べ伝えることとを学ばなければなりません。
  7. わたしたちは、神聖なエコノミーの究極的完成のために、神聖な真理の道に対して絶対的であるべきです—— II ペテロ 2:2。
  8. 諸召会は、わたしたちの教えを明らかにする責任を担い、真理のために戦い、主の回復を顧慮し、わたしたちの証しを顧みるべきです—— I テモテ 3:15. 6:12. II テモテ 4:7。